

市長4期目（令和2年8月～令和6年8月）の所信表明に掲げた政策・施策の進捗状況について

【令和5年度終了時点における評価表】

施策（内容）	項目（具体的な内容）	これまでの主な取組内容及び成果	評価
4 子どもたちや若者の笑顔がきらりと輝くまち			
（1）GIGAスクール構想・読書活動の推進 GIGAスクール構想の推進による新しい教育環境づくりや、子ども読書活動推進計画に基づき読書活動を推進します。	①デジタル教材及び周辺機器の整備	<ul style="list-style-type: none"> 国のGIGAスクール構想を受け、児童生徒1人1台のパソコン端末の導入や校内ネットワークの環境整備を進め、1人1台端末を活用した活用事例の共有や実践的な検証を進めました。 小学校算数科と中学校外国語科における指導者用デジタル教科書の導入や、国の「学習者用デジタル教科書実証事業」を活用して、その教育効果の検証を行いました。 	◎
	②ICTの活用による質の高い教育の提供	<ul style="list-style-type: none"> 北海道立教育研究所や登別市情報教育推進協議会と連携し、教職員研修を開催するとともに、ICTを積極的かつ効果的に活用した教育環境の整備に努めることにより、児童生徒の情報活用能力を育成しました。 登別市教育委員会デジタルフェローの知見を積極的に活用し、教員のニーズに応じた研修を充実させることにより、ICTを活用した指導力の向上を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に努めました。 	◎
	③ICTを活用した社会教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度登別ときめき大学基礎コース講座にて、ITに関する講座を開催しました。 	○
	④電子資料等の活用及び図書館司書と学校司書の連携強化による子どもの読書環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に電子図書館を導入することとし、3月より供用を開始しました。 学校図書担当者連絡会議等により情報交換や学校図書館の支援を行うほか、年間を通して電子書籍及び学校図書の購入に当たり相互に連携して選書を行いました。 令和3年10月から、中学校にも学校司書を配置し、子どもたちの読書環境を整備しました。 	◎
（2）グローバル人材の育成 英語教育や多文化共生を推進し、世界で活躍できるグローバル人材の育成を図ります。	①外国語指導助手（ALT）の増員による小学校の早い段階から自然に日常会話ができる英語能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の英語学習に対する意欲を支えるとともに、英語教育の更なる充実を図るため、英検チャレンジ事業として、小学4年生には「英検Jr. BRONZEテスト」の実施や市内中学生の英語検定受験料を補助する取組を行いました。 小中学校へ外国語指導助手を派遣し、英語本の読み聞かせやミニゲーム、発音指導等を行い、児童生徒が英語をアウトプットできる機会を創出しました。 	◎
	②幼児期に英語を覚えることが楽しくなる環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 直営保育所に外国語指導助手を派遣し、英語に触れる機会の創出を図りました。 	◎
	③国際交流や多文化共生の推進	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流団体等と連携し、国際理解を深めるための国際理解講座の開催や市内中学生をデンマーク王国に派遣し、豊かな人間性と広い視野を育むとともに、友好都市との交流を推進しました。 	◎

市長4期目（令和2年8月～令和6年8月）の所信表明に掲げた政策・施策の進捗状況について

【令和5年度終了時点における評価表】

施策（内容）	項目（具体的な内容）	これまでの主な取組内容及び成果	評価
4 子どもたちや若者の笑顔がきらりと輝くまち			
（3）豊かな心を育み、生命を大切にする教育 豊かな心を育み、いのちを大切にする教育を推進します。	①家庭、地域、学校が連携による、いのちの大切さと豊かな心を育む教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校等対策会議の実施や、鬼っ子フォーラム及び教職員を対象とした研修会を開催して理解を深めるとともに、いじめや不登校等の問題に早期かつ適切に対応しました。 ・児童生徒が不安や悩みを抱えた時、誰にどのように助けを求めればよいかを学ぶため、各小学校で「SOSの出し方に関する教育」を実践しました。 	◎
	②児童生徒が相談しやすい体制づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校の対処に当たっては、対応するスキルや各関係機関との連携が必要であることから、いじめ・不登校等対策会議を通してスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、心の教室相談員との連携を深める取組を進めました。 ・スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、心の教室相談員等を活用し、児童生徒や保護者が相談しやすい体制を整備しました。 ・教職員が児童生徒に向き合う時間を確保できるよう、令和4年4月より校務支援システムを本格稼働し、教職員の働き方改革を推進しました。 	◎
	③コミュニティ・スクールを活用した豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を市内全校に設置し、定期的開催される会議等において、委員からの学校運営に対する意見や助言、評価をいただきながら、地域とともにある学校づくりを進めました。 	◎
（4）幼児教育・保育の充実・強化 保育所のICT化や待機児童の解消、保育所の民間活力の導入などを推進し、幼児教育・保育の充実・強化を図ります。	①待機児童のない保育所運営と民間移譲の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所民営化方針に基づき、栄町保育所の民間移譲に向けて、新生地区に認定こども園の整備を実施しました。 	◎
	②保育所のICT化の推進による利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・市内保育所において、非接触方式による入退所管理や保護者への情報発信などを行うため、保育所向けICT化支援システムなどを導入しました。 	◎
	③保育従事者等への応援給付金の支給	<ul style="list-style-type: none"> ・働く保護者のため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中でも休むことなくサポートを続けた保育従事者に対して応援給付金を支給しました。 	◎
（5）児童の居場所づくりや遊び場の確保 児童館や放課後児童クラブ、放課後子ども教室の一体的な運営や将来のあり方を検討するとともに、児童の居場所づくりを推進します。	①児童館、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の一体的な運営等の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の一体的な運営等、将来のあり方について、放課後子ども総合プラン運営委員会等で関係部署による検討を進めています。 	○
	②児童館の学校内又は学校敷地内等への移転の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・幌別東小学校と幌別小学校が統合することに伴い、幌別小学校敷地内（プール跡地）へ児童館、放課後児童クラブを併設した施設整備を進めます。 	○
	③放課後児童クラブの学校内又は学校敷地内等への移転の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・幌別東小学校と幌別小学校が統合することに伴い、幌別小学校敷地内（プール跡地）へ児童館、放課後児童クラブを併設した施設整備を進めます。 ・教育委員会並びに青葉小学校と協議し、来年度中に青葉児童クラブを青葉小学校内へ移転を進めます。 	○

市長4期目（令和2年8月～令和6年8月）の所信表明に掲げた政策・施策の進捗状況について

【令和5年度終了時点における評価表】

施策（内容）	項目（具体的な内容）	これまでの主な取組内容及び成果	評価
4 子どもたちや若者の笑顔がきらりと輝くまち			
<p>(6) まちづくりを担う人材の育成 まちづくり活動に若い世代や新たな人材の参画を促し、未来のまちづくりを担う人材の育成を図ります。</p>	①市民自治推進委員会の活動促進	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により活動を行うことが難しい状況ではありましたが、育み部会では市民に本を読むことを広げるため登別中央ショッピングセンターアークス内に絵本コーナーを開設する等の取組を実施しました。 ・「新しい生活様式」を踏まえた協働のまちづくりを進めるため、市民自治推進委員会や連合町内会等と、オンライン会議も活用しながら不断に意見交換、情報共有を進めました。 	◎
	②日本工学院北海道専門学校との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・日本工学院北海道専門学校と締結した包括連携協定に基づき、同校の外国人留学生を支援するため、留学生支援補助金の対象をこれまでのホテル科の外国人留学生に限らず、同校に在籍するすべての外国人留学生を対象とし、連携を強化しました。 ・日本工学院北海道専門学校の学生寮の寮費が令和4年度から値上げされたことに伴い、留学生支援補助金の額を値上げされる学生寮の寮費に合わせ増額し、連携を強化しました。 	◎
	③高校生などの若者の参加による市制施行50周年記念事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・市制施行50周年記念事業は、多くの事業が延期となりましたが、コロナ禍において、学校生活や部活動など、特に我慢を強いられた子どもたちに笑顔を届ける新たなプロジェクトとして、市民実行委員会と連携した「Be Smileプロジェクト」を実施しました。企画・立案段階から、日本工学院北海道専門学校や登別青嶺高等学校、登別明日中等教育学校などの若い世代に積極的に参画いただき、まちづくりの楽しさを実感していただくことにより、未来のまちづくりを担う人材の育成を図りました。 	◎